

令和5年度 第1回糸島市総合教育会議 議事録

【開催日時】 令和6年2月19日（月） 15時00分から15時50分まで

【開催場所】 糸島市役所 庁議室

【出席者】

（構成員）

月形 祐二市長（議長）、西 憲一郎委員、松尾 実恵委員、宗 聖子委員

山口 幸美委員、家宇治 正幸教育長

（事務局）

中村 隆暢経営戦略部長、吉村 新一企画秘書課長、近藤 英介企画秘書課秘書係長

（関係者）

波多江 修土地域振興部長、高橋 桂一生涯学習課長、小林 智子健康福祉部長

（教育委員会事務局）

小嶋 智嗣子ども教育部長、成吉 伸一教育総務課長、吉永 政博学校教育課長、

福田 貴史学校教育課課長補佐、金子 剛教育総務課総務係長

安部 祐子学校教育課教育指導係長兼指導主事

中村 悠毅学校教育課教育支援係長兼指導主事

野口 順也学校教育課主幹兼指導主事

（傍聴人）7人

【開会】

■月形市長

ただいまから、『令和5年度 第1回 糸島市総合教育会議』を開催する。

会議規則の規定に基づき、進行を務めさせていただきます。

【議事録署名構成員の指名】

■月形市長

会議規則第9条第3項の規定に基づき、構成員の中から1名を指名させていただきます。

『宗 委員』を議事録署名構成員に指名させていただきます。⇒異議なし。

【協議事項】

（1）中学校部活動の地域移行推進の取組の充実について

■月形市長

それでは、協議事項に入る。

まずは、『中学校部活動の地域移行推進の取組の充実について』を議題とする。

まずは、学校現場における現状について、担当課から報告をお願いします。

(※吉永学校教育課長より、資料に基づき報告。)

## ■月形市長

中学校部活動の地域移行推進の取組について、現状と課題が報告された。

このことについて、皆様からのご意見をお伺いしたい。

### [主な質問・意見]

## ■宗委員

アンケートの結果で、満足度が92%と高いのは、非常に素晴らしいことだと思う。このアンケートは、何人の生徒からの回答があったか。

志摩中学校の保護者や生徒から、部活動の地域移行についてはメリット、デメリットを伺う機会がある。今後もメリット、デメリットが出てくると思われるので、そこを整理しながら、子ども達にとっての部活動のあり方、子どもの気持ち、保護者の意見、先生方の意見も聞きながら、子ども達が困ることのないように進めていただきたい。

この地域移行にあたって、共通理解が必要だが、糸島市としての部活動に対する指針があれば、上手く共通理解ができるのではないかと思う。というのも、平日は先生による部活動、休日は指導員がおられれば指導員が行うということで、子どもも保護者も、どちらに尋ねればよいのか困惑しているという話もお聞きした。そこで、糸島市としての指針を出していただければと思っている。

## ■家宇治教育長

調査については、令和2年度に行っている。部活に入っている生徒のほとんど全員にアンケートを行っていると思う。その時は全市的に満足度が高かったと記憶している。詳細は後ほど回答する。

## ■吉永課長

部活動の指針ということだが、本来部活動は、学習指導要領の中に教育的効果の高いものとして位置づけられている。もちろん教育課程外の活動であるので、どちらかというと先生方の仕事以外のところでの活動かと思われる。ただ、教育効果が非常に高いところで、脈々と受け継がれてきたところがある。

先ほどのご質問に関しては、部活動全般については先生方に質問していただき、専門的な指導に関することであれば、部活動指導員に質問していただいても構わないと思っている。ただし、この仕組みづくりについては、学校教育課等を通じてご質問いただきたい。

## ■月形市長

保護者の皆さんを含め混乱が起きないように、お示しいただくようお願いする。

## ■山口委員

用語の定義の確認だが、「部活動指導員」と、以前話に出てきていた「外部指導者」とは同一のものか。

## ■吉永課長

部活動指導員については、会計年度任用職員として任用している。大きな特徴としては、土日の部活動の試合への引率や、顧問として監督者としての登録がある。一方の外部指導員はボランティア的なところが多く、平日の部活動の補助として、謝金をお支払いしてご協力いただいている。外部指導者単体では試合への引率はできず、監督としての登録もできない。

## ■家宇治教育長

部活動指導員については一人で部活の指導をすることができるが、外部指導者の場合は顧問との組み合わせでないと指導ができない。部活動担当の教員が中心を担うこととなる。まったく質が違うものである。

## ■松尾委員

部活動の地域移行の推進の一番の意義は、教職員の方の働き方改革が目的となっていたと思う。特に休日に先生方が休みを返上して部活動の指導に行かれるということを外外部指導員の方にしていただき、土日は先生方が休めるようにということだったと思う。あとは専門でないことを指導しなければならないということのプレッシャーの軽減が目的だったと思う。ただ、少しずつ動き出していると思うが、指導員の人材確保というものが、今後は大事になってくる。今後の人材確保については、どのような考えをお持ちか。

## ■吉永課長

一番のネックが、そこである。地域の人材を発掘・活用ということなので、学校教育課だけではなく生涯学習課も含めて連携しながら、人材の確保に努めていきたいと思っている。併せて、教育効果という視点から部活動の重要性を意識しているので、例えば指導員と一緒に「どういった指導が良いのか。」といった研修会を、定期的に開催していかなければいけない。そういったことも併せて、発掘・活用を推進していきたいと考えている。

## ■家宇治教育長

子ども達や保護者の意見として、アスリートを目指すような専門的な指導を求める人と、学校の中の同じ部活の中で人間関係を築いて同じ目的に向かうことを求める人がおり、二極化してきている状況はある。我々は、それに対応していかなければならない。アスリートを目指す人には地域にある社会教育の団体の方、地域にあるスポーツクラブやスポーツ団体の方に入ってもらう。他の子ども達は学校の中で部活動を勧めていくという形で、二つを見極めながら進める必要がある。そのような中で、学校の中で専門的な指導をしていただける方をどうやって確保するかということで、体育協会であるとかスポーツ団体であるとかに少しずつお願いをしていく形になっている。武道については地域に道場があるので、そちらの方々に協力をいただき、土日はそちらにお願いする。このようにいろいろな形の組み合わせをしていかなければならないと思っている。100%外部にお願いすることができるかというところとできないので、部活動の指導を好まれる先生方には兼職・兼業の申請を出していただき、担っていただく。全国的にも3割、4割くらいは、教員がそのまま土日祭日の指導を続けていきたい、というデータもあるようなので、そのあたりも見極めながら取り組んでいきたいと思っている。もう一つは、地域総合型のスポーツクラブ等を設立してはどうか、という話もあるが、これは現状を見極めている。これに取り組んだいろいろな団体が、様々な問題を抱えるようになってきて、子ども達も遠くに行かなくてはいけない、経費もかかる。そのような中で本当に身近で子どもたちが楽しめ、親しめるスポーツ環境ができるのかと考えたときに、糸島ではなかなか難しいなというところもあるのではないかと分析している。そのあたりをいろいろ考案しながら、糸島市としての最終的な方針を出していくというように思っている。

## ■月形市長

中学校部活動の地域移行については、まだまだ国の方針も後ろ倒しになっているところもあり、市としても子ども達を中心に据えながら、教育の一環であるというところを忘れずに地域の皆様にもご協力いただけるよう、混乱のないように進めていきたい。貴重なご意見をいただき感謝申し上げます。

## (2) 不登校の現状と取組の充実について

### ■月形市長

では続いて、『不登校の現状と取組の充実について』を議題とする。学校現場における現状について、担当課から報告をお願いします。

(※吉永学校教育課長より、資料に基づき報告。)

## ■西委員

糸島では、不登校が毎年増えているという問題がある。令和6年度予算で、教育支援センターについて要求している。これは、不登校の支援効果があるのではないかと期待している。資料に「魅力ある学校づくり・学級づくり」というのがある。これは不登校にならないための、魅力あるわかりやすい学校づくりになろうかと思う。国も、令和の日本型教育の中で、自分の関心があるものを学ぶということが示されている。先月、NHKで「学校のみらい」という放送があった。この中で、実際に不登校を経験した子ども達や文科省の初等局長が出て、いろいろな方がこの問題をどうするか、意見を述べられていた。その中で、不登校になった人達が言っていたことが、みんな同じ一斉授業で、自分がやりたいことではないことがきつくなり、なかなか学校に行かなくなった、ということを書いてあった。そこで一斉授業を改めようという事例が出ていた。事例として出ているのが山形県の小学校で、いわゆる一斉授業を8割にして、2割は子ども達に任せる。子ども達が先生になり、あるいは子ども達がどういうことを学ぶかを決める。先生は傍で見ています。これによりいろいろな子ども達の良い点が出てきて、自分がやりたいテーマの勉強ができるようになったとのことであった。そのようなことも考えていく必要があるのではと思った。国はICTを使って、自分のペースでできる魅力的な授業を進めようということもあるだろうが、一斉授業でみんな同じ内容をということ、少し考えなおす時期にきているのかなと思う。これから検討していただければと思う。

## ■家宇治教育長

今学校がどういう立場にあるかということを経長会でもよく話をするが、選ばれる、選択肢の一つとなってきたのではないかとということも話している。学校そのものが魅力ある姿を見せなければならない。そういう意味では今おっしゃったように、今教育課程の中には教科の学習と「総合」や「特別活動」というものがある。「総合」や「特別活動」については、ほとんど子ども達の主体的な学びの場として行っている。志摩中では起業家教育などを行っているが、SDGsに関する教育もグループに分かれながら、子ども達の発想でやりたいことを決めて、自分たちで答えを出している。しかし、それでも入りきれない子ども達がいることは確かである。そこに対してどう支援していくかということが、これから教育委員会としては非常に重要になってくる。そこで、今回支援センターを立ち上げることにしている。昔でいう適応指導教室のように、座っておくだけが支援センターではない。支援センターの機能としては、相談機能、支援機能、そして連携がある。この連携というものは、フリースクールであったり、子どもの居場所である。そういったところと連携しながら進めていかないと、子ども達に対応できなくなってきた。どこまでやれるかは今後の取り組み次第だと思っているが、教育委員会としてはしっかりと取り組んでいきたいと思っている。

## ■山口委員

子ども達が不登校になる際に、学力的にわからなくなって不登校になるケースもあるが、それ以上に集団の中でどう自分の居場所を見つけられるか、そういったところに不安を抱えてだんだん学校から遠のいていくという傾向もあるので、学力向上とともに学級集団作りというか、横の連携を強めるような、お互いがお互いのことを理解できるような集団作りも学力向上とともに車の両輪として進めていく必要がある。そして、自分を理解してくれる友達がいる。だから学校に行っても安心だ、というようなところが少しずつでも出てくると、不登校も減っていく傾向にあるのではないかと思う。学力向上とともに集団づくりの指導というものも、今後考えていく必要があるのではないかと思う。

## ■吉永課長

委員がおっしゃっていただいたことについては、今着手しているところである。二丈中学校、福吉中学校校区の方で、集団作りと学力の相関について、県の事業で九州大学との連携の基で明らかにしているところである。おっしゃるように学力不振により学校から遠のく子どももいるが、その子たちも含めて、やはり集団の力を高めることが学力に何らかの影響があるであろうというところを、客観的なデータを基に明らかにして行っているところである。その研究が進み成果や課題が明らかになった暁には、どういったことが集団作りに効果的であつ学力があがる、ということが明らかになると期待しながら、注視をしているところである。

## ■月形市長

この総合教育会議というものは、教育分野に留まらず全般的な話をする場である。不登校については義務教育ということで学校教育課が支援をしているが、その子ども達が高校生になり、社会人になっていく中においても、支援が必要である。そういった支援の在り方についてもご意見をお伺いしたい。

## ■家宇治教育長

九州大学との連携で、『みなも』を設置して研究を進めていただいているが、そこからいつもご意見としていただくことは、義務教育が終わった子ども達で引きこもりになった人の親御さんを支援する機能がない。先々には就労にも関係してくる。やはり福祉部局との繋がりが非常に強くなってくる。そこについて私たちは連携としてお話をさせていただくが、踏み入れない。今後大きな課題になってくるのではないかと捉えている。福祉部門のご意見も伺いたい。

## ■小林健康福祉部長

健康福祉部では現在、重層的支援体制整備事業というものを進めている。福祉は基本縦

割りで制度が設計されているが、例えば子ども、生活困窮、障がい、高齢というような、その制度の狭間に落ち込む人がおられるということで、その制度の狭間をできるだけ狭くしていき、壁を乗り越え少しずつ手を伸ばすことによって、その制度の狭間に落ち込むことがないようにしていこうという取り組みが進んできているところである。事業としては、令和4年度から開始している。その中で、引きこもりの方達への支援を、糸島市社会福祉協議会の方で、実施させていただいているところである。福岡県には従来から、ひきこもり地域支援センターによる支援があるが、なかなかそこまで行くということが難しいということもあり、センターから出張で時々来ていただき相談に応じるという取り組みもさせていただいている。現時点では、高校生の不登校のお子さんがお一人、保護者の方と一緒に月に一回の相談会と集まりの場に来られているという実績がある。今後については、教育と福祉の連携を進めていくことにより、そのような義務教育を終えた後のお子さん達についても何らかの支援の手が差し伸べられるように、仕組みづくりを進めていかなければいけないと考えている。

#### ■月形市長

やはり義務教育が終わってからも、高校に行ったから変われるかといったらそう変わるものではないということで、その隙間をなくしていかなければいけないと思っている。

#### ■家宇治教育長

高校の方では来年度から、不登校対応の学級を作るというようなことも打ち出してきている。しかしそこに行ける子は良いが、そうではない子ども達がいることも現実なので、そこは福祉なりとの関係も含めながら検討していく必要があるのだろうと思っている。全てに手が届くべきではあるが、厳しい状況であることも事実である。

#### ■松尾委員

高校で不登校になっている子どもは、小学校、中学校の時から不登校になっているという傾向が顕著に出ている。一番大事なことは、不登校を未然に防止することだと思う。保護者から相談を受けることがあるが、急に不登校になるということはなく、少しずつ学校に行かなくなるということである。その部分から支援を入れていかなければならないのではないかと思う。いつの時期に始まるかという、幼稚園から小学校に上がる時期、そして夏休み明けが多い。教育支援センターを作るということは、すごく良いことだと思うので、少し悩んである親御さんのための相談機能も向上させていただくということで、保護者の方にも周知していただくと、そこから未然に防ぐことにつながるのではないかと思う。保護者の方とよく話をしあげないといけないと思う。子どもは絶対に前兆がある。保護者の方も最近では忙しく難しいこともあるが、前兆があった時にすぐ対応すると未然に防げることもあるので、教育支援センターの機能を広

げていただき周知していただきたい。

#### ■小嶋子ども教育部長

教育支援センターについては今構想中のものであり、当然議会のご理解をいただき議決いただいてからのスタートとなる。保護者への周知というご意見をいただいた。もちろんそのような相談機能はこれまでの教育センターの機能を引き継ぎ、充実させるということになるが、予防的なアクションなどの基本的なところはやはり学校で対応できないと学校機能そのものが落ちてしまうので、教育支援センターが全てを行うということにはならない。それよりも学校での支援が難しくなってきた、他との連携も必要になるといったところに対して、どのように対応していくかということプロデュースしていくというようなところを概念として持っている。

#### ■家宇治教育長

学校の体制がしっかりし、教育委員会としての相談機能を充実させていくことはもちろんであるが、なかなかそれに対応できないことが増えてきていることも事実であり、どこにどう相談したらよいか総合的な窓口が必要である。それからスクールカウンセラーを相談の中に入れていますが、教育者であっても添うことができないような相談も増えてきている。いわゆる専門的な相談が必要なケースがある。学校がやるべきこと、教育委員会がやるべきこと、それにプラスアルファで対応しなければならないことが今後出てくる。

#### ■宗委員

不登校については悩まれている保護者の方がたくさんおられる。保護者にとっては、子どもが学校に行かなくなるという状況がとても不安で、どのように対応すれば良いかわからず、悩んで不安で日々葛藤されている方もおられると思う。先ほどのお話で専門的な相談のケースもあるといわれていたが、不登校の兆候が出たときの保護者に寄り添い、現状に共感していただけるような機関があれば良いかなと思う。学校としてもなかなか踏み込めない状況があるかと思うが、まず一番は子ども達、そして保護者の方々と向き合っていただき、寄り添いながらということがキーワードではないかと思う。それぞれの子に応じた支援をお願いしたい。

#### ■家宇治教育長

福祉の話ばかりになったが、医療とも非常に関係が深い。起立性調節障害を持った子ども達が増えてきている現実がある。医療的なケアも必要になってきている。どのような対処をしていく場所があるのか、教育委員会としての仕事だろうと思う。今後整理が必要となる。



#### ■月形市長

貴重なご意見を聞かせていただいた。社会が変わっていっている中で子ども達の個を大切にしながらどう育てていくか、そして一人も取り残さないということを、教育委員会だけではなく福祉も含め市として総合的に、次の時代を担う人たちを育てていくというものを作り上げるように、暗中模索であるが皆様からもご意見を賜るようお願いする。本日いただいたご意見も、今後の参考にさせていただく。不登校について、これで終わらせていただく。

### (3) その他の協議事項

#### ■月形市長

その他の事項として委員の皆様からご意見があればお伺いしたい。

#### ■家宇治教育長

学校教育のDX化。ICT活用教育の充実ということで、議会の承認を得てかなりの部分整備を進めている。学力についても英語についても、全てにおいてこれが効果を発揮している。更なる拡充が必要と考えている。

#### ■小嶋部長

会議の最初に質問のあったアンケートの人数についてだが、体育系の部活130人に対して行っている。全員から回答を得ている。

### 【閉会】

#### ■月形市長

以上をもって、令和5年度第1回糸島市総合教育会議を閉会する。